

超親水性インプラント 「イニセルインプラント」を用いた 連結ケース

青森県八戸市開業 医療法人 夏堀デンタルクリニック
理事長 夏堀 礼二

キーワード：超親水性インプラント

はじめに

インプラント治療を行う際に、長期的に良好な予後が期待できるインプラントシステムを選択することが重要とされることは周知のことである。

筆者はこれまで多くのインプラント治療を経験してきたが、SPIシステムインプラントは埋入後の安定性に定評があるインプラントシステムの1つと

して高く評価している。

実際、当院では10年以上の採用実績があるが、これまで目立ったトラブルは経験していない。

そのSPIシステムインプラントより、親水性を再獲得できるインプラントフィクスチャーとして登場したのがイニセルインプラントである。

本国スイスでは以前より販売されていたが、ようやく日本においても昨

年から使用できるようになった。

本稿ではそのイニセルインプラントを用いた症例を紹介したい。

症例概要

初診：2019.12.5

患者：65歳男性

主訴：右側インプラント希望にて他院より紹介

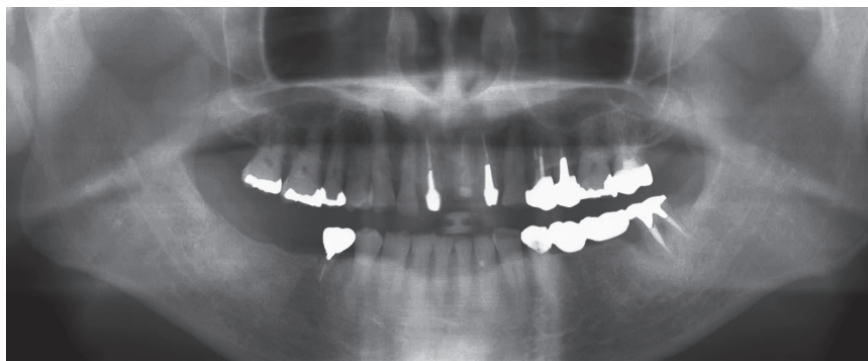


図1 初診時のX線写真。右側インプラント希望にて他院より紹介された。



図2 通法通りインプラント埋入窩を形成し予定部位にフィクスチャーを埋入していく。

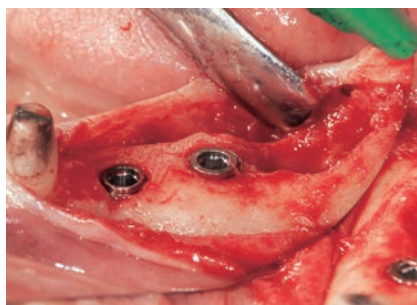


図3 7 抜歯と同時に15 16 相当部にそれぞれイニセルインプラント エレメントφ4.5mm×12.5mmとφ5.0mm×11mmの2本のインプラントを埋入した。



図4 あらかじめ作製したおいたプロビジョナル用レジンフレームは4 のクラウンと一緒に連結されており、位置決めの指標となる。ミキシングタイプのデュアルキュアレジンをういてパーツで位置を確認後、口腔外で研磨調整を行った。



図5 バイトさせないように作製したスクルーリテインのプロビジョナルレストレーション。

治療計画：右側インプラント希望で来院されたが、その治療中「7」が歯根破折し、抜歯の説明を行ったところ、右側治療終了後左側インプラントを希望された。

左側治療開始時には、待望のイニセルインプラントが販売され、患者の希望もあり「7」抜歯と同時に「5」「6」相当部にそれぞれイニセルインプラントエレメントφ4.5mm×12.5mmとφ5.0mm×11mmの2本のインプラント

を埋入し、ヴァリオマルチアバットメント連結を行い、アバットメントレベルのスクリーリテインのプロビジョナルを装着した。プロビジョナル装着後、6週間は咬合接触させず、また軟食を摂るよう指導し、くれぐれも硬いものはまだ噛まないように注意を促した。

6週間経過後、プロビジョナルにレジジン添加し咬合させるよう調整し、さらに1ヵ月後に経過観察を行った後、最終上部構造の印象採得を行った。

アバットメントレベルの印象採得では、ベリフィケーションインデックスを採得し、SPIチタンベースアバットメントとCAD/CAMにより設計、ミリングされたフルカントゥアー ジルコニアフレームが正確にセメンティングできるように準備をする。

イニセルインプラントは咬合管理と患者指導をしっかり行っておけば、治療期間3ヵ月を待たずに最終上部構造を装着することが可能であった。

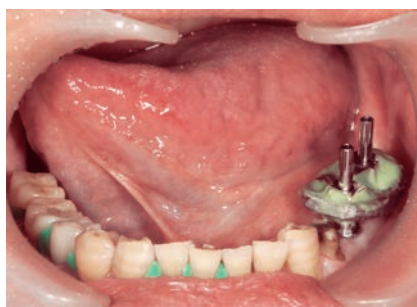


図6 ベリフィケーションインデックスの状況。



図7 印象採得の状況。



図8 完成したアバットメントレベルのフルジルコニアスクリーリテインによる上部構造。

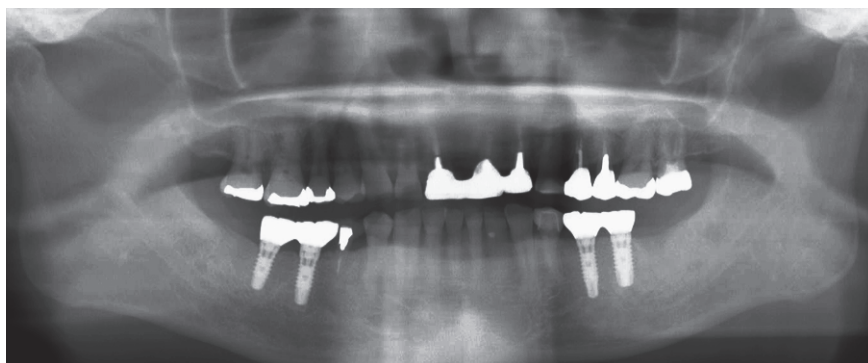


図9 治療終了から一年後のパノラマX線写真。